平成２１年７月１０日
パリ産業情報センター
駐在員 酒井　裕史

一般調査報告書

１００年目のパリ・エアショー

〈パリ・エアショーの概要〉

２００９年６月１５日から２１日までの７日間にわたって、パリ市郊外のル・ブルジェにおいて、第４８回パリ・エアショーが開催されました。１９０９年に第１回が開催されて以来、今年は記念すべき１００年目の展示会にあたります。

航空・宇宙産業に係る展示会としては世界最大であり、ひとつの空港がそのまま展示会場になっています。広大な敷地の中では、屋外で民間機・軍用機を問わず本物の航空機が実機展示されています。巨大なホールのなかでは民間旅客機用の巨大なジェットエンジンから小さなネジにいたるまでさまざまな航空機部品、さらには人工衛星なども展示されています。もちろん、この場で具体的な商談が行われるとともに、航空機部品等に係る調達・引合い情報が交換されます。また、取引金額が大きいことや、機密情報が取り交わされることが多いことなどから、有力な企業は自社専用の商談施設を会場内に設置し、商談・交渉を行います。

特に中小企業による調達・引合い情報の交換については、主催者が中心となってコーディネートを進めており、そのための専用の打ち合わせ・説明会スペースも設けられています。このことは、展示会における航空・宇宙ビジネスの促進・効率化に大きく役立っているとのことです。

また、このエアショーは、最新鋭の軍用機、民間旅客機がデモフライトを行うため、世界中の航空ファンが集まる場でもあります。今年は特に１００周年を記念して、エアバスの最新鋭機Ａ３８０などとともに、約１００年前から第二次世界大戦終結後までのクラッシック機約３０機がデモフライトを行い、観客を喜ばせていました。

今回のエアショーに出展した企業数は２０００社を超えました。このうちの約６０％がフランス国外の企業であるということからも、世界的なエアショーたる由縁が窺えます。同時に、出展企業のうちの約７０％が中小企業であり、その数は年々増えているとのこ

とです。また、先述のとおり、主催者が積極的にビジネスミーティングのコーディネートに関わるようになったことにより、前回（２００７年）のショーにおいては６０００件以上の商談会や技術説明会が開催されたと発表されており、今年も大きな期待を集めています。しかしながら、今年のエアショーは、世界経済の不振などを背景に、商談そのものの件数・金額については「低調」であったと言われています。（一方で、低調ながらも「予想よりは良かった」との論調も見受けられます。）

私たちパリ産業情報センターも、このエアショーに出展する企業のなかから愛知県地域に進出する可能性のある企業を事前に選び出し、この展示会の場で訪問しました。そこで現時点での県内の企業との連携の可能性などを話し合うとともに、将来における日本への進出可能性をインタビューしました。結果として、現時点で日本進出を具体的に検討しているという企業は見つかりませんでしたが、将来的には日本進出を視野に入れて戦略を考えたいという企業には出会うことができたので、今後も継続してアプローチしていきたいと考えています。

〈日本からも数多く出展〉

今年のエアショーには日本からも２０を超える企業が出展しました。社団法人日本航空宇宙工業会が取りまとめ役となった日本ブースでは、航空機部品を製造する企業がそれぞれの製品について大がかりな展示を行い、日本の優れた技術をアピールしていました。

また、日本では約４０年ぶりになる国産旅客機ＭＲＪの開発を進めている三菱航空機株式会社も専用の商談施設をエアショー内に設け、積極的な売り込みを図っていました。このＭＲＪは、航空会社や部品メーカーなどを中心に海外でもとても大きな関心を集めており、その売れ行き状況が注目されています。

なお、日本から出展した企業の中には東海地域内に本社・拠点を持つ企業が多数含まれており、航空機産業についての日本国内有数の集積地としての東海地域の面目躍如といったところです。

〈ＧＮＩ（グレーター・ナゴヤ）地域からも出展〉

今回のエアショーに合わせて、中部経済産業局をはじめ、関東、近畿、中国の各経済産業局の連携による「産業クラスター･プロジェクト」が実施されました。

これは、日本国内各地域で航空機部品加工に携わっている中小企業の海外取引の活性化を促すことを目的に、これら企業のエアショーへの出展支援を行うものであり、ＧＮＩ地域、長野県、広島県などから８社１団体が参加しました。（このうちＧＮＩ地域からは４社１団体が参加しています。）

このプロジェクトでは、ブースを出展してＰＲを行うとともに、海外の航空機関連メーカーとのビジネスミーティングも積極的に行われました。また、海外各地域の航空機関連

クラスターと国内のモノづくり系産業クラスターとの連携構築を目的に、クラスター同士の意見交換会も実施されました。

ビジネスミーティングについては、機体メーカー２社（エアバス社及びボンバルディア社）と延べ４件のミーティングが行われ、さらに航空機部品メーカー８社とは延べ１９件ものミーティングが行われたとのことであり、今後においての新たな取引の開始が大いに期待されています。

中部経済産業局でも、これらの交流の成果を活かすべく、秋頃を目途に今回のミーティング企業を名古屋に招聘し、ＧＮＩ協議会等との共催でフォローアップセミナーの開催を予定しているとのことです。

クラスター同士の交流の結果についても、メキシコ航空宇宙工業会を中心にしたメキシコ航空ミッションの名古屋訪問（９月）が決定したそうです。

〈ＧＮＩセミナーを実施〉

愛知・岐阜・三重の三県で構成されるグレーター・ナゴヤ協議会（ＧＮＩ）は、以前からフランス・ヴァルドワーズ県と交流を持ってきました。この交流を背景に、今回の「産業クラスター・プロジェクト」出展事業に際しても、フランス・ヴァルドワーズ県から特設の商談会場を提供していただきましたので、グレーター・ナゴヤ地域に立地する企業を中心にしたセミナーを開催しました。このセミナーにおいては、企業立地先としてのＧＮＩ地域の優位性、ＧＮＩ協議会から提供される企業立地支援策について説明を行ったほか、参加企業４社・１団体がそれぞれの得意とする技術・製品の紹介を行いました。

セミナー後に開催された参加者交流会においては、参加したヴァルドワーズ県関係者から、「ＧＮＩ地域における航空機関連産業について理解が深まった。こうした先端産業をはじめとして、両地域間の連携をさらに強化していきたい。」との声が挙がっていました。

〈おわりに〉

今回のエアショーのような展示会は、各企業がそれぞれ自慢の製品を広く世に問う場であるとともに、企業同士の出会いの場・コミュニケーションの場でもあります。今回、日本から「産業クラスター・プロジェクト」に参加された各企業の方々も展示会会期中に精力的にビジネスミーティングに参加され、自社の製品・サービスを広くＰＲするとともに、企業同士の連携の可能性を探られていました。このミーティングの結果が具体的な取引案件に結びつくよう、大いに期待したいと思います。また、愛知県産業情報センターにおきましても、このような展示会の場を活用した企業訪問を続けるとともに、そのなかで発掘した進出有望企業へのアプローチを継続し、ぜひ具体的な進出につなげていきたいと考えています。